

「ゼニガタアザラシと漁業の町」

日本に定住する唯一のアザラシであるゼニガタアザラシ。襟裳岬は、餌資源が豊富であること、休息場となる岩礁があることなどにより、ゼニガタアザラシの国内最大の生息地・繁殖地となっています。

過去には毛皮や食肉を目的として乱獲されその数は激減してしまい、1998年に絶滅危惧種に選定されました。その後、徐々に増加傾向を見せていますがそれに伴い漁業被害も増加しています。

ゼニガタアザラシが棲み、漁業が盛んな“えりも町”を表した1枚が撮れました。



襟裳岬 4月



襟裳岬 8月

「つぶつぶ…?!」

沢山の粒々…これは、襟裳岬に棲むゼニガタアザラシの生息数調査の際、岩礁に上陸しているアザラシの様子をドローンを用いて上空から捉えた写真です。アザラシは船でしか近づけない場所で休んでいるため、ドローンが活躍します！

からだの銭型模様の出方やしぐさは個体により様々。人間と同じように個性を感じます。

「えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業」

環境省では、平成28年度より「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画」をスタートし、漁業被害の防除と個体群管理を柱として取り組みを行うことで「漁業とアザラシの共生」を目指しています。

この計画以前にも様々な被害防除対策が試されましたが、その多くは長期間続けるとアザラシに慣れが生じるなど効果は一時的でした。策を模索する中、ゼニガタアザラシの侵入を防ぐ格子網を使用することで被害の軽減に一定の効果が見られました。

また、個体群管理のための捕獲においては、水中カメラを用いて網に近づくアザラシの様子を撮影することで分かった情報を元に、方法の改良を続けることにより一定の成果が上がっています。加えて、えりも地域の個体群の状況を把握するため、岩礁周辺でのドローン撮影による生息数調査などを行っています。



「トッカー食い」と呼ばれる
アザラシによる食害



乗船調査の様子



ドローンによる個体数調査

えりもアクティブ・レンジャーとして、漁期は毎日漁船に乗り込み被害状況を確認する他、水中カメラの交換、目視による定置網に近づくアザラシの観察を行います。また、アザラシの岩礁への上陸に関わる月の満ち欠けや潮の満ち引き、えりも特有の風を読みながらドローンを飛ばすなど、アザラシに関わる業務に奔走しています。

漁業被害の防除や個体群管理など、日頃より地元漁師のみなさんや地域の関係者、研究者の協力を得ながらよりよい環境となるよう取り組みを進めています。

「日高山脈襟裳国定公園」

日高山脈襟裳国定公園は、国内最大の国定公園であり、他には見ない特徴的な山岳・森林・海岸には、それらに適応した固有種も多く生息しています。

標高 2000m 程度ながら本州の 3000m 級に匹敵する高山環境を誇っています。

山の中にひっそり佇む可愛らしいハートの形をした湖“豊似湖”も有名です。



日高の稜線



襟裳岬



豊似湖